



発行所
北都新聞社

本社 電話
〒098-0502
名寄市風連町北栄町146-1
☎ 01655-3-3111
FAX 01655-3-4031

Eメール
ownstyle@lily.ocn.ne.jp

レストラン
ヒビンカ
日本料理
福鶴亭

GRAND HOTEL FUJIKI
グランドホテル藤花
名寄市西5南4
☎01654③2323(代)
http://www.fujika.jp/



三放談

パソコンが普及して、多くの情報をデジタルデータとして保存するようになった。自分もワープロ時代から原稿はフロッピーディスク、ハードディスク、フラッシュメモリなどに保存している。しかし、すべてのデータが手元にあるかという、わからないのが現状。ハードディスクやフラッシュメモリもすべての保存場所を把握していない。最近では数年前1年分の原稿が見つからない。保存

インクルーシブ教育 文科省事業3カ年推進

名寄市「切れ目ない支援を構築」

【名寄】第3回定例市議会は19日再開し、午前中、2氏が一般質問を行った。市は、障害のあるなしで学ぶ場を分けないインクルーシブ教育の推進について、文科省の指定事業を生かし、今年度から3年間で体制強化する考えを示した。

山崎真由美氏(市民連合・凧風会)への答弁。指定事業は、文科省が公募した「インクルーシブ教育システム推進事業」で、全国30地域の一つに名寄市が選ばれた。

小川勇人教育部長は「8月に指定が決まった。3カ年事業で、特別支援教育連携協議会の体制整備、名寄版の個別支援計画『すくらむ』の幼児・小中学生全員への配布、広域での講演会、セミナーの開催や看護師の配置を進める。就学前から切れ目ない支援、ともに学ぶシステム、環境を構築したい」と答えた。

同日は、このほか災害時の情報伝達手段として防災無線の新設、防災緊急告知ラジオの希望への新規配布をたのび、中村勝己総務部長は「ラジオの全戸配布は考えていない。防災無線は予算上のこともあり、全道的な設置状況を勘案し、研究しなければならない」と理解を求めた。

佐久間誠氏(市民連合・凧風会)は種子法が来年4月に廃止される影響を「優良種子の供給が安定せず、地域農業の衰退につながる」と指摘。市の考えを求めた。

白田進経済部長は「栽培条件が厳しい品種の開発、研究が立ち遅れる可能性や、道の品種開発の体制縮小が懸念される。農業者が安定的に高品質な作物の生産を継続できるような優良で質の高い種子を提供できる施策を関係機関と連携しながら国に求める」と答えた。

同日は、市道除排雪の充実や、福祉と連携した高齢者の住まいの拠点づくりをたのび、天野信二建設水道部長は「低廉な家賃の住まいを整備を推進する必要がある」とし、パリアフリーの市営住宅整備を住宅マスタープラン策定の中で検討する考えを示した。

加藤剛十市長は「除排雪施策は、これで良しということではなく、断的に議論し、よりよた。い冬の生活の確保に研(吉永雅)

加藤剛十市長は「除排雪施策は、これで良しということではなく、断的に議論し、よりよた。い冬の生活の確保に研(吉永雅)